



職場では終日デスクワーク。「地震時の事業継続計画策定」「リスクマネジメント・危機管理」「原子力防災訓練」など非常に重いテーマの研究に取り組んでいる。「空道で精神的なバランスをとっているのかもしれない」

空道 実戦に即した格闘技で 精神の緊張をよみがえらせる

高橋英明(たかはし・ひであき)さん

三菱総合研究所

空手をベースにし、柔道の投げ技や関節技を加えた、より実戦的な武道が空道だ。81年に創立された大道塾が始めたもので、25年の歴史を持つ。この創立時から、選手として、指導者として活動を続けてきたのが三菱総合研究所の高橋英明さんだ。

東京・新宿にある区立スポーツセンター。午後7時、100畳の広さを持つ武道場で大道塾「空道」の稽古が始まった。稽古着に身を包んだ塾生は20人、女性も3人いる。ほとんどが社会人で、年齢層は30代が中心だ。

「いちツッ、にツッ」という掛け声とともに各自、気合を込め、前進しながら、突きや蹴りを出す。3月の肌寒い季節だというのに塾生の顔はすぐに上気し、汗で光った。

塾生と向かい合い、掛け声を発しているのが高橋英明さんだ。模範となる

形を見せながら、塾生のフォームに乱れを見つけると、すぐにアドバイスを送る。口調は穏やかだが、眼光是鋭い。高橋さんは東北大学入学時に空手を始めた。「日本人として

武道を身につけておきたいと思いましたが、肉体的にも精神的にも自分を鍛えるために。柔道や剣道は子どもの頃から始めている人が多いので、ならば空手だということでも実戦空手で知られる



極真会館の門をたたきました」

厳しい稽古に耐え、大会にも出場するようになる。大学院2年時には東北大会のベスト8に入り、全国大会の出場権を得るほどの腕前になった。しかし、間が悪いことに留学や学位論文のために忙しい時期と重なることが多かった。結局、全国大会で試合を経験することなく現役を終えた。

「やり残したという思いが残りました。それが今でも続いている理由でしょう」
**不測の状況に対応する
護身術が大道塾**

大道塾は極真会館の全国大会で優勝経験を持つ東孝氏が仙台で興した流派。特徴は極真空手よりさらに実戦的である点だ。

「武道は護身術なんです。自分や家族の身に危険が迫った時、逃げられれば



厳しい昇段審査を経て段位が与えられる。高橋さんが持つ6段は世界に4人しかいない。仕事の上では工学博士の肩書も持つ

2001年に行われた第1回世界選手権大会で主審を務める高橋さん。大道塾では副審判長の重責を担う。今年の11月には第2回世界大会が開催される予定だ

それに越したことはありませんが、戦わなければならないこともある。そんな不測の状況に対応できる、何でもありの格闘術を志向するのが大道塾です。顔面への加撃も許される。ただし、安全のために組み手の時は顔面を保護するマスクをつける。また、突きや蹴りといった空手の技だけでなく、柔道のような投げや絞め・関節技、さらに肘打ちや頭突きも許される。これが「空道」だ。安全性と実戦性を同時に追求した、着衣での総合格闘技である。

東氏の考えに共鳴した高橋さんは、大道塾の創設に参加した。三菱総合研



一般的な空手と違うのは、ボクシングに近い動きがある点。実戦を想定しているためだ。運動量も相対的なもので、稽古着はすぐに汗まみれになる

突く、蹴る、投げる…、
なんでもありの格闘技。
覚悟が必要な稽古の
緊張感がたまりません



全日本選手権で上位を狙う選手のスパーリングパートナーを務める高橋さん



新宿支部の塾生は約50名。「強くなりたくて」「健康維持のため」「精神を鍛えたい」…。塾生の入門動機はさまざま。皆、仕事か忙しい中で時間をつくり、週に2回の稽古に参加している

究所に就職し東京に出てからは、新宿支部長として指導を始めた。今では、関東地区にある約30の支部のとりまとめ役も務める。

職場での現在の肩書は安全科学研究本部長。官公庁などの依頼を受け、人々が安全に安心して暮らせる社会をつくるにはどんな施策をとるべきか研究する部門のトップである。責任は重い。朝8時には出社している。だが、週に1日は5時前に退社し、空道の指導にあたる。このサイクルを20年以上続けてきた。忙しい時間を割いて行う空道とは高橋さんにとって何かと聞いたところ、即座に「覚悟して臨む時間を大事にしたいと思っています」という答えが返ってきた。

「稽古は体力的に極めてハードであり、ある種の覚悟を持って臨まなければならぬ場です。組み手では大ケガをする可能性もある。楽なことを追求するのが当たり前の風潮がある日常の中で、週に2度、覚悟と緊張感のある非日常の場を提供したいと考えています」

2時間の稽古を終え、汗びっしょりになった高橋さんが口を開く。

「格闘技をしていると、さまざまな感覚が味わえます。恐怖もある、痛みもある、その一方で、ある種の快感もあります。それを肉体で実感できる時間は私にとって貴重。いろいろな意味で、仕事や生活に生きていくはずですよ」